

年頭挨拶

屋久島森林管理署長 木暮甲吉

あけましておめでとうござい
ます。

皆様におかれましてはご家族
共々よい年を迎えられたことと
お慶び申し上げます。

昨年は様々な出来事がありま
した。1月には荒川登山道上(森
林軌道)での岩盤の崩落、これに
より約5ヶ月間一部区間の登山
道を使用することができません
でした。また、9月には樹齢20
00年とも言われる翁杉が幹折
れしたことも屋久島にとつ
て誠に残念な出来事でした。

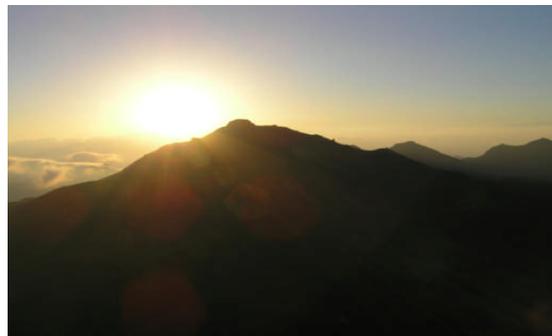
しかし、私達は世界自然遺産
に登録されたこの屋久島を後世
に引継いでいく責任があります。
自然災害が起きれば必要に応じ
て環境への影響を最小限にとど
めながらの復旧工事や、また、
翁杉のような貴重な「著名ヤク
スギ」の樹勢状況調査、森林生
態系保護地域におけるモニタリ
ング調査や植生の保護保全な
ど、今後におきましても地域の
皆さんの意見や専門家・関係機
関と連絡調整を図りながら取り
組んで行きたいと考えています。

加えて、屋久島ではシカの間
題があります。現在、ヤクシカ
の個体数は1万2千〜1万6千
頭とも推定され、ヤクシカによ
る農林業被害や森林生態系への
影響も懸念されているところで
す。その対策の一環として、国
有林内においても全職員でく
りワナによる有害鳥獣捕獲を実

施し一定
の成果(約
4百頭の
捕獲)を
あげると
ができる
とができ
ました
が、それ
がすぐに
結果とし
てでもあ
りませ
ん。今年
も引き続き
き農林業
等被害拡大防止対策など様々
な取組を地域とも連携しながら行
つてまいります。

また、昨年は森林・林業の再
生に向けた改革について、最終
的な取りまとめがなされました
が(概要は下段)、屋久島前岳の
スギ人工林は着実に成長してい
ます。その間伐材やヤクスギ土
埋木は屋久島の貴重な資源で
す。その活用などについても生
業としての林業と併せ今後の島
内の産業を考える上で一つの大
きな課題と考えているところで
す。

新春にあたり、国有林野事業
に対する一層のご理解とご協力
をお願いするとともに、屋久島
町皆様のご多幸を心からご祈念
申し上げます。年頭のあいさつとさ
せていただきます。



「森林・林業の再生に向けた改革の姿」



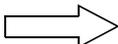
適切に施業(間伐)が実施された
屋久島の人工林



屋久島杉人工林材を使用した住宅

改革の方向

- 1 森林計画制度の見直し
 - ・市町村森林整備計画のマスタープラン化
 - ・新たに森林経営計画(仮称)制度の創設
 - ・市町村が主体的に森林の区分を設定 など
- 2 適切な森林施業が確実に行われる仕組みの整備
 - ・伐採、更新のルールの特明確化
 - ・施業代行などによる適切な森林施業の確保 など
- 3 低コスト化に向けた路網整備等の加速化
 - ・施業集約化の推進
 - ・民有林・国有林の森林共同施業団地の推進
 - ・林業専用道、森林作業道の区分を新設 など
- 4 担い手となる林業事業者の育成
 - ・森林組合改革・林業事業者育成 など
- 5 国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立
 - ・民有林・国有林の連携強化により国産材の安定供給体制を構築
 - ・公共建築物木材利用促進法に基づき木材利用を推進
 - ・木質バイオマスの総合利用の推進
 - ・国産材の環境貢献度について「見える化」の推進
 - ・地域材を活用した木造住宅の推進
 - ・合法木材等の普及や違法伐採対策の強化 など
- 6 フォレスタ一等の人材の育成
 - ・フォレスタ、森林施業プランナー、現場技術者・技能者の育成

10年後の姿  木材自給率50%以上